

CD化へパソコン研修

豊見城の音訳「より聞きやすく」
ボランティア



【豊見城】豊見城市内の視覚障がい者に音訳ボランティアをしている「リーディングサービス」つくしんぼ（嘉数善子会長）が音訳のデジタル化に向け、パソコンによる編集技術を習得中だ。メンバーは「利用者がより聞きやすいCDに編集したい」と意欲を見せる。

2月から同市社会福祉協議会の音訳ボランティアフオーアップ研修事

音訳サービスのCD化に向け、パソコン研修に励む「つくしんぼ」メンバー18日、豊見城市伊良波の市立中央公民館対面朗読室

業として、FMとよみ社長の安慶名雅明さん(54)を講師に招き、パソコンによる編集作業を学んでいる。

「つくしんぼ」は1999年から市立中央図書館（桃原チエ子館長）の対面朗読室を拠点に活動を行っている。メンバー

は40代から70代までの12人。毎月「広報とみぐすく」をカセットテープに音訳して録音、市社協を通じて7人の利用者に無料配布している。

時代の流れで、カセットテープが品薄になり、CD化を模索。昨年、車両競技公益資金記念財団の助成で編集機材を購入した。一方、メンバーはパソコン初心者がほとんどで、起動、マウス操作

からのスタートだった。安慶名さんの指導で個人差はあるものの音楽を編集に取り入れる作業もこなせるようになった。「意欲があり、利用者のため」という思いが上達につながった」と安慶名さん。

嘉数会長(71)は「個人のレベルを上げるのが目標。桃原館長、安慶名社長、社協、メンバーの協力と利用者がいるから頑張れる」と話し、「より多くの利用者にサービスを届けていきたい」と意欲を見せる。将来的にはネット配信も視野に入れている。同会はメンバーも募集中だ。問い合わせは市社協☎098(856)2782。